



つながる、たのしむ、相談できる ～スマホでつむぐ重症児支援の未来～

シーズ・ニーズマッチング交流会2021

10月9日(土) 14:40～(30分)

オンラインで、
リハビリを革命する。

自己紹介

長岡菜都子(びいどろ)

重症児の『食べる』を育む専門家

(言語聴覚士)

オンラインリハビリのパイオニアとして、
オンラインを活用したこれまでにないサー
ビスを、全国に広げる活動を行っている。

事業

全国各地の重症児デイや、子ども専門訪問
看護ステーション、医療機関、介護施設な
どへ、オンラインでの相談事業を複数運営
している。

肩書

- ・ 一般社団法人オンラインケア 理事長
- ・ 一般社団法人オンライン臨床 理事長
- ・ びいどろ 代表
- ・ はなうた図工室 副代表

経歴

2005年 言語聴覚士免許取得
 2005年 山口県内総合病院勤務
 2008年 市内訪問看護ステーション勤務
 2019年 びいどろ設立
 2020年 一社)オンラインケア設立
 代表理事就任
 2021年 一社)オンライン臨床設立
 代表理事就任



びいどろ

オンラインリハのはじまり

離れて暮らす友人のもとに生まれた、ダウン症の女の子。
彼女は複数の医療的ケアを抱えていました。友人を助けた
い、その想いで始めたオンラインでの遠隔リハビリ。哺乳の
指導から始まり、離乳食の練習へと着実に進んだことで、彼
女の医療的ケアは1つずつ外れ、1歳の誕生日には市内の保育
園へ通えるようになりました。

「オンラインでのリハビリには未来がある」そう確信した私
は独立し、オンラインでの事業拡大を始めます。

オンライン事業が軌道に乗りはじめた頃、世界的に新型コ
ロナウイルスが猛威を奮い始め、オンラインサービス拡大が
一気に加速していきました。

それと同時に、重症児向けのオンラインサービスを複数展
開したことで、私のもとには、全国各地からたくさんのSOS
が送られてくるようになりました。

「食べさせるのが怖い」

言語聴覚士の私のもとへ届くSOSの多くは、「食べる」に
関する悩みでした。当事者の声、重症児を育てる家族の声。
そして、その数と同じくらい届くのが、彼らに関わる専門職
からの声でした。

「職場にSTがおらず、わからないことばかりです。」
 「まだ臨床経験が少なく、リハに自信がありません。」
 「誤嚥させたらどうしようと、怖いんです。」

誤嚥性肺炎から守るための10のこと

誤嚥性肺炎から子どもたちを守りたい。
子どもにも、家族にも、そして彼らを支える専門職にも、
だれにでも境界線なく、正しい「10の知識」を届けよう。

そうして完成した10の動画(右のリンク参照)。
すでに300名を超える方々のもとに届いています。



コロナ禍だからこそできる、スマホを使ったオンラインでの
新しい取り組み。

あなたのスマホにもきっと届くはずですよ。